令和６年 12 月 13 日

太田市議会議長

高田　靖　様

市民ファーストの会　代表　大川　敬道　㊞

会派行政視察報告書

１　期日　　令和６年 10 月１７日（木）から 10 月１８日（金）までの２日間

２　視察地　　兵庫県姫路市（第 85 回　全国都市問題会議）

３　視察事項　　（１）兵庫県姫路市

①　第 86 回　全国都市問題会議

４　参加者　　３名

大川　敬道　　神谷　大輔　　山水めぐみ

５　視察概要　　別紙のとおり

全国都市問題会議

〈10 月 1 7 日（木)〉

○基調講演

「生命を捉えなおす　―動的平行の視点からー」

生物学者、青山学院大学教授　　福岡　伸一　氏

○主報告

「市民の「LIFE」（命・くらし・一生）を守り支える姫路の健康づくりとまちづくり」

兵庫県姫路市長　清元　秀泰　氏

○一般報告

「生き物から学ぶ健康なまちづくり」

筑波大学システム情報系教授　谷口　守　氏

○一般報告

「都市そのものを健康にするまちづくり～ストレスを軽減し、リフレッシュできるまち～」

千葉県流山市長　井崎　義治　氏

○一般報告

「IT/AI の健康分野への適用例～姫路市の健診データ解析と歌唱による誤嚥予防～」

兵庫県立大学副学長　畑　　豊　氏

〈10 月 18 日（金)〉

パネルディスカッション

テーマ　：　健康づくりとまちづくり～市民の一生に寄り添う都市政策～

コーディネーター　：中央大学法学部長教授　　宮本　太郎　氏

パネリスト：高岡病院児童精神科　　三木　崇弘　氏

NPO 法人日本栄養パトネット理事長　　松橋　崇史　氏

長野県茅野市長　　今井　敦　　氏

大阪府泉大津市長　　南出　賢一　氏

（1） 所感

まず、生物学者　福岡仲一氏の基調講演において、生物学者の観点から、生命はエントロピー増大の法則に抗いつづけ、そのことは、つくることより壊すことを優先していることを、都市のまちづくりになぞらえている。

生命体が、壊されることを予定して作られているということで捉え、それを都市づくりにあてはめ、古いものを新しいものにつくりかえるのではなく、先回りして壊すという視点を唱えていた。

また、福岡氏の生物学者としての代名詞ともいえる「動的平衡」の概念で都市のまちづくりを捉え、エントロピーを捨てて、それを作り直してバランスを保つとする生命体の特性を示し、その概念を行政にとりいれる視点を唱えていた。

福岡氏の基調講演を受け、清元　秀泰・姫路市長が主報告において、健康づくりとまちづくりについて報告を行った。

清元市長は、医師の経験を活かし、市民の健康増進に向けた施策を積極的に展開しているとして、具体的な取り組みを示した。

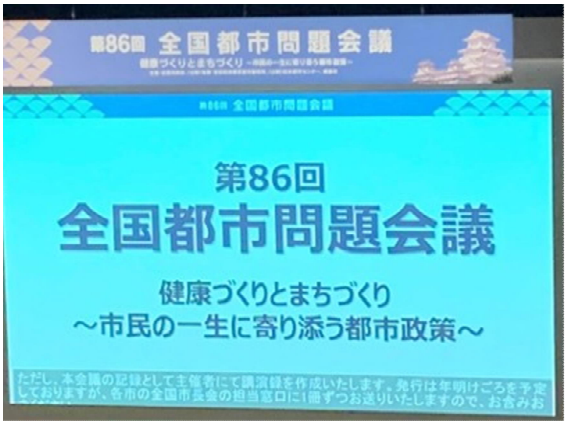
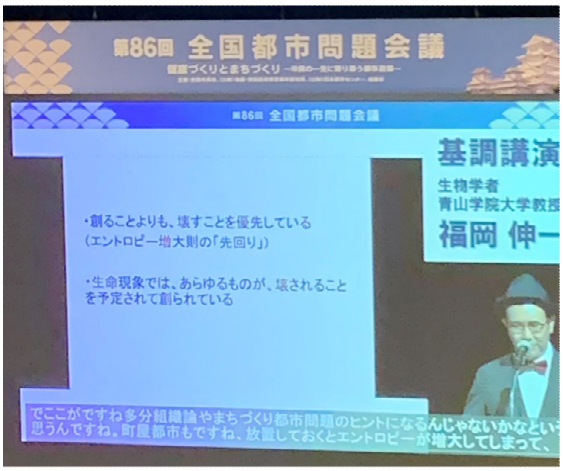
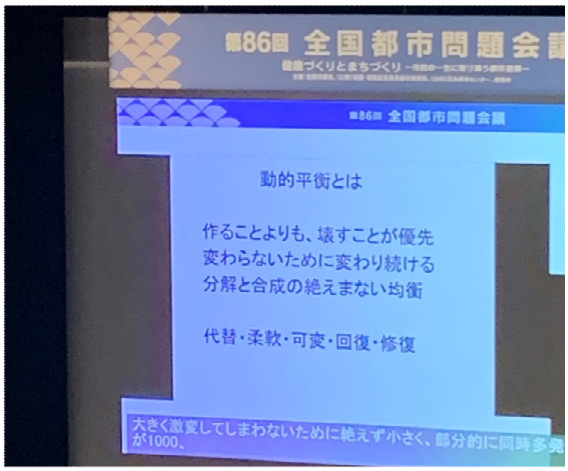
その一つとして、将来の認知症患者の増加予測から、認知症予防のための「通いの場」への参加促進をあげ、地域の住民同士が気軽に集い、一緒に活動内容を企画し、ふれあいを通して「生きがいづくり」「仲間づくり」の輪を広げ、地域の介護予防の拠点化にもするとの取り組みを推進しているとのことである。

また、「ウォーカブルなまちづくり」を示し、人々がまちなかに外出し、出会い・交流できるウォーカブルな「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成に取組み、その取組みを、幅広い世代の心身両面における健康づくりにつなげようとするとのことであった。

2日目のパネルディスカッションにおいて、コーディネーターを務めた中央大学法学部教授　宮本　太郎氏が、かかりつけ医がソーシャルワーカーと連携し、薬の処方箋だけでなく、「場」の処方箋を出しているとのイギリスの事例を紹介し、清元市長が展開する施策の社会的必要性の評価を示した。

基調講演において福岡氏が提唱されていた、都市のまちづくりを生命体としてとらえ、壊すことに主眼をおくことは、行政がとりいれるべき新たな視点であると考える。「ハコモノ」と揶揄されるように、つくることがまちづくりであるとの固定観念にとらわれ、また、「ハコモノ」が、まちにおいて、過度に空間的存在感を持ってしまうことで生じ得る「ハコモノありきのまちづくり」を転換し、清元・姫路市長が唱える、行政が、市民の健康を担っていこうとする方向性は、全国的にも「健康づくりとまちづくり」というソフト施策の視点が、「ハコモノ」と揶揄されるハード事業にも方向転換を引きだし、さらなるソフト施策を生み得ると考えられ、本市においてもそうした視点を取り入れ、検討すべきであると考える。

さらに、清元市長が、重点づける「予防」の推進である「通いの場」への参加促進は、厚生労働省の生活支援体制整備事業における「地域のお宝」とも、住民同士の集いの場の提供

という面において重なると言え、社会的つながりの「場」の創出を行政が主体的に取り組むことで、「共助」と「予防」を融合し、機能を有した「場」の創出であると考察するところである。

市民が、地域において、つながりをもって健康に生活することが「元気なまち」の本質であるということを、一連の会議を通じて示されたといえ、本市においても、求められるとして、推進を考える視察であったと言える。